

## 第1回 清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会 会議録

日 時：平成30年8月2日（木）午後6時～午後8時45分

場 所：男女共同参画センター 会議室1・2

出席者：①委員10名

池田厚子委員、井澤敏夫委員、今中真琴委員、内野光裕委員、大津里美委員、久世清美委員、関戸和之委員、高井正委員、星野泉委員、星野孝彦委員（敬称略、五十音順）

②事務局4名

企画部長、企画課長、企画調整担当職員2名

③コンサルタント（有限責任監査法人トーマツ）5名

※以下、「コンサル」と表示。

欠席者：無し

### 《次第》

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員の自己紹介
4. 委員長の選任
5. 委員会の公開について
6. 市民検討委員会について
7. 公共施設再編の疑似体験（公共施設再編ゲーム）
8. その他

### 《配布資料》

1. 資料1 清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会 委員名簿
  2. 資料2 清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会設置要領
  3. 資料3 清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会傍聴規程
  4. 資料4 清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会の概要
  5. 資料5 公共施設再編ゲームについて
- 参考資料 清瀬市公共施設等総合管理計画（公共施設白書編）

### 《審議経過》

1. 開会 事務局が進行。
2. あいさつ

- 企画部長よりあいさつ。以下内容。
- 人口減少時代で市の財政状況が右肩下がりの中、全ての公共施設を維持することは困難。
- 20年、30年先を見据えた安全・安心で使いやすい公共施設にしていくための計画を策定したい。
- これまでも公共施設白書や総合管理計画を策定し、説明会やワークショップを開催する中で市民の方の意見をまとめてきた。
- 今回それらを踏まえた再編計画を策定したいと考えており、更に様々な意見を頂きたい。

### 3. 委員の自己紹介

### 4. 委員長の選任

- 委員長は星野泉委員に決定。

### 5. 委員会の公開について

- 公開（①市ホームページ等への掲載、②委員会の傍聴）について決定。

### 6. 市民検討委員会について

- 資料4のとおり。

### 7. 公共施設再編の疑似体験（公共施設再編ゲーム）

- 資料5のとおり。以下質疑応答。

《委員》

小学校の再編という話が出たが、統合を意味するのか。

《事務局》

小学校一校あたりの児童数が減となった場合、教育上どの様な学校が望まれるのかを議論の上、必要に応じて統合も選択肢の一つになり得る。

《委員》

小学校の空き教室等に他の公共施設の機能をつくることも再編の一つと考えているのか。

《事務局》

例えば2つの学校を集約することも選択肢の一つであり、また耐久年数を迎える学校の建替えの際には、学校の機能のみではなく地域のコミュニティ施設等も併せてその場所に整備していく選択肢も考えられる。

《委員》

現在第七小が大規模改修をしている。大規模改修と今回の再編の話は関係すると思うが、大規模改修が終わっていない学校はどこか。

《事務局》

大規模改修は清瀬小学校含め 2 校が残っている。今回の再編計画は 10 年後、20 年後、更にその先を見据えて考えて頂きたい。本日の再編ゲームでは、大規模改修をしたためすぐには再編できないといったことは考慮しないで、直近の話ではなく、未来を見据えた広い視点でご参加頂ければと思う。

《委員》

松山地域市民センターは古いが、中里地域市民センターは新しい、といったことは考慮しなくてよいのか。

《委員長》

ゲームのとおり再編されるといったことは考えなくてよいと思う。清瀬市のまちと見ないでやるくらいの方がよいのではないか。

《コンサル》

ゲームのとおり再編されるといったことは全く考える必要はなく、むしろ、様々な考え方があるということを実感して頂きたい。例えば、ここに空きスペースがあるということや、同じような機能の施設があるということ等を改めて知り、色々な可能性に気付いて頂ければと思う。

《委員》

実際のとある学校の再編ということになると簡単な話ではない。今回はゲームという形で臨みたい。具体的な統合となると別の議論の場があると思っている。またこの会議で、特段再編を進めていくという立場で議論する必要もないと考えている。

《コンサル》

本日ゲームをするためのあくまで設定として説明したところである。このゲームで何かが決まるわけではない。

《委員》

将来的な展望で考えるよう言われていたが、実際どれ位先を考えたらいいか。例えば現在の人口なのか、30 年後子どもが減っているという状況を見て考えるのか。

《コンサル》

今回はサービスの質やコストの余りといった着眼点で考えてほしい。一点だけ、資料 5 の 22 頁で児童の人口推計を掲載している。今現在での施設の必要性の判断をベースに、将来ここに掲載した人口推計がある中

で、将来的にも必要か否かを考えてほしい。曖昧な説明となってしまうが、将来を見据えながら、今現在の感覚で考えて頂きたい。ただ、あまり将来人口に固執して施設量のはまるか否かまで考えて頂く必要はない。将来的にこのサービスがいるのか否かの視点を重視頂ければと思う。

《委員》

もう一度このゲームの目的、目指すところを確認したい。

《コンサル》

このゲームでは、サービスをまとめることで、コストを減らすということを目指して頂きたい。今回、サービスを集約することで、一か所のみ足を運ばば事足りるということ、サービスが向上することだともみている。

《委員》

数字は何を表すのか。

《コンサル》

その施設を維持するために年間かかるコストの量を表している。不明な点がまだまだあると思うので、ゲームをやりながら適宜質問頂きたい。

- 下記のとおり 2 グループに分かれて実施。

【1 グループ】

1	星野 泉
2	関戸 和之
3	内野 光裕
4	久世 清美
5	今中 真琴

【2 グループ】

1	大津 里美
2	井澤 敏夫
3	星野 孝彦
4	池田 厚子
5	高井 正

- ゲーム終了後、各グループがゲーム結果を発表した。以下発表内容。

【1 グループ】

- 老人いこいの家は老朽化し、また防音機能が整備されておらず、使い勝手が悪いと判断し、全て廃止し、学校の中に複合化した。
- 今の時世を考え図書館は不要と判断し、全て廃止したが、機能としては、貸館機能も含め、他の様々な施設に集約した。
- 本よりインターネットで調べることが多くなっている。ただし勉強するスペースはほしい。図書館の勉強するスペースは今より増やし、各学校に複合化した。
- 地域図書館の窓口機能は、中央図書館や大学の図書館で代替可能と考え、廃止とした。

- 様々な場所に散らばっていた機能を便利な場所で集約し、機能として残した。例えば、貸館機能は生涯学習センターや郷土博物館、清瀬けやきホールに集約した。
- その他、小学校に様々な機能を複合化した。
- 市内に体育館は一つあればよいという考えから、コミュニティプラザひまわり体育館は廃止した。また、市民プールは市民体育館に複合化した。
- コストは全体の 15,000 から 560 削減した。4%近い。
- 基本的に学校はいろんな場所にあって立地的に便利なので、そこにいろんな機能を入れるという議論となった。学校はコミュニティの拠点の様な形としたので、今回、学校自体の統廃合は入っていない。
- 統廃合をするとしたら、三小と七小との意見が出た。
- 芝小と四小を四中に集約して小中一貫校にする意見が出た。四中を拠点にエリアを再編した方が野塩へのアクセスもよい。
- 旧森田家は茅葺屋根の維持費に課題があり廃止とした。

## 【2 グループ】

- 施設を廃止するのではなく、市直營業務から民間委託しても良い施設として、旧森田家が挙がった。民間活力を活用し、古民家風のレストランにする意見が出た。
- 施設をまとめていくという考えから、下宿の市民プールや体育館は古いので、健康センターに集約し、拡充するとした。結果、下宿は拠点になり得ないとした。
- 南口地域に予定されている児童館を、下宿に代わって拠点とする考えが出た。
- 就労に関する施設はハローワーク以外を集約した。例えば障害者だけでなく、シルバー人材センターも一緒にまとめた。
- ころぼっくるセンター（児童センター）内の子ども家庭支援センターを、健康センターに複合化した。理由としては、ころぼっくるセンター（児童センター）を利用するまでもないような内容の相談を、市役所に来たついでにできるよう、敷居を低くする考えからである。
- 市民プールは、屋外の夏季のみの限定のため廃止し、学校のプールを代替えするとした。なお、一般利用に対応可能な設備が整っているかについては、別途考慮する必要がある。
- 清瀬市に小学校 9 校は多いため、三小と七小、芝小と六小、清小と八小について統廃合の意見が出た。学校は、適正な教育をするため

に適正な規模や環境が必要である。

- 地域レベルの施設の議論に入れなかったが、全市レベルの施設だけで、コスト 190 の削減となった。全体コストの 1%強である。

## 8. その他

- 次回日程について連絡。

以上